グループで学び合う！病態生理演習

カテゴリー：③教育方法（演習）

１．学校概要　学校名：鳥取県立倉吉総合看護専門学校　所在地：鳥取県倉吉市南昭和町１５
　　課程名：第１看護学科　１学年定員数：３５名　修業年限：３年

２．科目設定のねらい・到達目標
　１）ＰＢＬをとおして、自己学習能力を高め、自分の意見を表現する力、他者と協調する力を身につける。
　２）既習の学習を活用し、事例の病態生理を理解しながら関連図を作成する。
　３）病態生理の知識を深め、根拠に基づいた看護の実践につなげる。

３．演習内容・方法

グループ学習の進め方

複数疾患のある４事例の学習計画を、３～４人のメンバーで立案する。
①グループ内で４事例をどのように学習していくのか決め、共通／分担して調べる内容を確認する。その後、グループ学習中の役割（司会、書記等）、学習の進め方、グループのルールを決める。
②４事例の病態生理をメンバー間で知識を共有しながら理解する。
③４事例のうち１事例（担当事例）の関連図を模造紙に作成し、発表の準備をする。

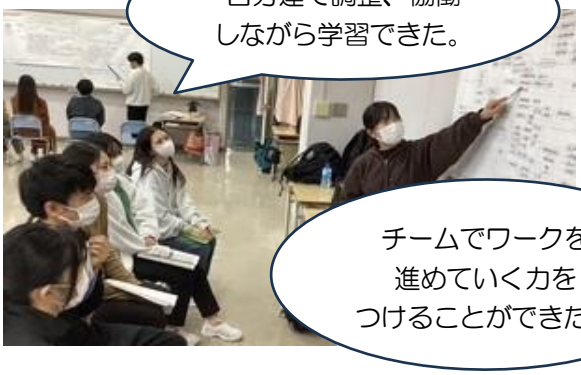
グループごとに「本時の課題」を明確にするよう助言し、自己解決に向けた行動を促した。

発表会の進め方

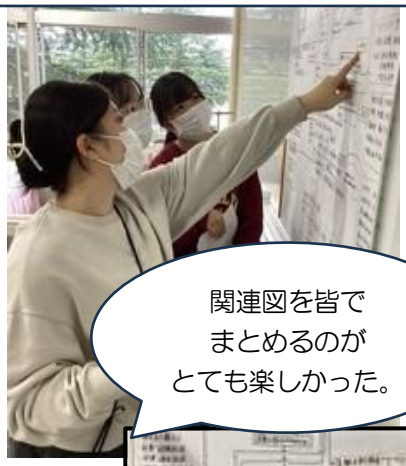
①ポスターセッション形式で４事例の関連図の説明をする。
②担当事例の関連図をメンバー全員がローテーションしながら４回説明する。自分が説明しない時間帯は、担当事例以外の３事例を聴講し、質疑応答に参加する。
③発表会終了後、質疑応答の内容をグループ内で共有し、担当事例の関連図の見直しをする。

発表や聴講で得た学びを共有する時間を設定し、役割意識をもった行動がとれることを目指した。

４．学生の感想



慢性心不全がある腹部大動脈瘤の患者



パーキンソン病がある急性心筋梗塞の患者





５．教員の感想
・演習の回数を重ねていくことで、自分たちが何を学ばなければならないのか、学生間で話し合いながら明確になっていた。
・発表会は、他者に伝えることで新たな学びや視点の発見につながっており、効果的だった。
・少人数グループの協調は、チームワークやチーム医療の実践につながるため、この経験を活かしていけるような助言をしていきたい。